

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的長期研修】

受託団体名 財団法人 三次国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

広島県北部の三次市, 庄原市, 安芸高田市の日本語ボランティアが, 行政及び外国籍住民と連携して, 地域の多文化共生社会の実現を図る。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月2日	三次市生涯学習センター第2講座室	駒澤昭士 詰丸真由美 戸島美智子 日高玲子 久保田澄美 高木律子 沖千佳子 山岡洋子 間瀬いく 神岡眞信 福光宏彰 二本木譲 中垣健一 (事務局)	全体の事業内容の決定 (1)実行委員会体制について (2)ボランティアを対象とした実践的研修内容について	・実行委員体制(案)について承認。 ・7月～9月までの研修内容及び開催日程についても決定。
9月15日	三次市生涯学習センター第2講座室	駒澤昭士 詰丸真由美 戸島美智子 日高玲子 久保田澄美 高木律子 沖千佳子 山岡洋子 間瀬いく 神岡眞信 福光宏彰	10月以降に実施する講座の内容について	・10月～12月の研修内容及び開催日程について決定。

		二本木 譲 中垣 健一 (事務局)		
12月8日	三次市生涯学習センター第2講座室	駒澤 昭士 詰丸真由美 戸島美智子 日高 玲子 高木 律子 沖 千佳子 山岡 洋子 間瀬 いく 神岡 眞信 二本木 譲 中垣 健一 (事務局)	講座内容の変更及び確認 1月以降に実施する講座の内容について	・1月以降の研修内容及び開催日程について決定。 ・第11回の研修会と併せて第4回実行委員会を開催
2月17日	三次市生涯学習センター第2講座室	駒澤 昭士 詰丸真由美 戸島美智子 日高 玲子 高木 律子 山岡 洋子 間瀬 いく 神岡 眞信 二本木 譲 中垣 健一 (事務局)	事業全体のまとめ	

【写真】



3 研修講座の内容について

(1) 研修講座名

地域連携を目指したコーディネーター養成講座

(2) 研修の目標

広島県北部の三次市, 庄原市, 安芸高田市の日本語ボランティアが行政及び外国籍住民と連携して地域の多文化共生社会の実現を図る。

(3) 受講者の総数 213人

(4) 開催時間数(回数) 51時間 (11回)

(5) 参加対象者の要件

地域の日本語ボランティア, 各市町及び国際交流協会等の日本語ボランティア教室担当者

(6) 受講者の募集方法

- ・三次市・庄原市・安芸高田市の主な公共施設にチラシを掲出
- ・三次市の広報紙(広報みよし7月号)に掲載

(7) 研修会場

- ア 講義 三次市福祉保健センター, 三次市生涯学習センター, みよしまちづくりセンター
- イ 実習 三次市生涯学習センター, みよしまちづくりセンター, 広市民センター, 廿日市市市民活動センター

(8) 使用した教材・リソース

講師指定の書籍及び、講師によるレジュメなど毎回講師が教材となる研修用資料を作成して使用
10月3日研修使用教材 手をつなごう！全員参加のー教材づくりをめざしてー(呉ひまわり21)

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7月24日 13:30~16:30 (3時間)	講義(3時間) テーマ「地域の多文化共生を目指して①」なぜ多文化共生なのか, その概論を学ぶ	国立国語研究所日本語教育基盤情報センター 整備普及グループ長 野山 広	52人
7月25日 9:30~12:30 (3時間)	講義(3時間) テーマ「地域の多文化共生を目指して②」なぜ多文化共生なのか, その概論を学ぶ	国立国語研究所日本語教育基盤情報センター 整備普及グループ長 野山 広	25人
8月22日 9:30~12:30 (3時間) 13:30~16:30 (3時間)	講義(3時間) テーマ「日本社会の中の外国籍住民とは」 実習(3時間) テーマ「外国籍住民の声を聞く」3市の外国籍の方も参加してワークショップ形式でお互いの考え方を学ぶ	広島国際学院大学現代社会学部講師 高畑 幸 東広島市外国人相談員 高良マルシア	26人
9月15日 9:30~12:30	実習(3時間) 「やさしい日本語」 使ってみよう「やさしい日本	(社)ひろしま国際センター 常勤日本語講師	22人

<p>(3時間)</p>	<p>語」~ちょっとした工夫で伝わる!つながる!!~ 外国語体験(分からない言葉で必要な要を足す困難さやストレスを類似体験)を通じて「やさしい日本語」の重要性を知り、さらには相手と通じ合うための「聞く技術」などについて研修。</p>	<p>黒田 類</p>	
<p>10月3日 14:00~20:00 (6時間)</p>	<p>視察研修(6時間) 「呉ひまわり21」 広島県内では日本語教室に早くから取り組まれ、子どもに対する支援も積極的に行っている「呉ひまわり21」の伊藤代表から設立の経緯や現在の課題についての講義、さらには実際に行われている教室を見学しました。</p>	<p>ワールド・キッズ・ネットワーク代表 伊藤美智代</p>	<p>9人</p>
<p>10月25日 11:00~14:00 (3時間)</p>	<p>視察研修(3時間) 「廿日市市国際交流協会の多文化交流ランチ」 講義(組織立ち上げの経緯、現在の課題等)・質疑応答 「多文化交流ランチ」見学。地域のいろいろな人と話をして情報交換や友達が作れる廿日市市国際交流協会の「多文化交流ランチ」</p>	<p>廿日市市国際交流協会 福田規子 太秦淑史 川本典子</p>	<p>15人</p>
<p>11月7日 9:00~12:00 (3時間) 13:00~16:00 (3時間)</p>	<p>講義(3時間) 実習(3時間) テーマ 「地域日本語教室のあり方を考える」 『能代教室の歴史、活動報告』 ◇日本語教室運営の考え方(何のための教室か) ◇日本語教室と地域住民を繋ぐ試み ◇年少者の日本語教育について 『指導法について』 ◇日本語指導者に求められる条件とは ◇日本語を教えることの</p>	<p>能代日本語学習会 代表 北川裕子</p>	<p>13人</p>

	難しさ体験(基礎の教え方)		
12月5日 9:00~12:00 (3時間) 13:00~16:00 (3時間)	講義(3時間) 実習(3時間) テーマ「市民活動としてのサポートを一緒に工夫して考えよう」 ◇生活者にとって必要な工夫、様々な活動 ◇日本語がゼロの状態の方々とどうやってコミュニケーションのとり方。 「ことばの地図」を使っ ての会話	(社)国際日本語普及協会 松尾恭子	12人
1月16日 9:30~12:30 (3時間) 13:30~16:30 (3時間)	講義(3時間) 実習(3時間) テーマ『読む』『書く』活動 地域で生活する人を支援するために 「読む」活動を考える 「書く」活動を考える	(社)ひろしま国際センター 非常勤日本語講師 吉本由美	12人
2月5日 9:00~12:00 (3時間) 13:00~16:00 (3時間)	講義(3時間) テーマ「行政との連携をとるために／多文化共生に対する行政のとりくみを考える」 実習(3時間) テーマ「地域多文化共生について／三次・庄原・安芸高田の日本語教室について今後のあり方を考える」	(社)ひろしま国際センター 常勤日本語講師 間瀬いく	17人
2月17日 9:30~12:30 (3時間)	講義(3時間) テーマ「生活者としての外国人のための日本語教育(まとめ)」	(社)ひろしま国際センター 常勤日本語講師 間瀬いく	10名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

全ての研修講座においてアンケートを実施した結果、研修を通じて地域の日本語教室の実情が分かった。もはや日本語教室は単に日本語を教えるだけでなく外国人の身近な生活相談窓口として存在している。指導ボランティアは外国籍住民を生活面でも支えている。そのような実態であるがゆえに、地域の日本語教室には良いことばかりでなく問題点や課題が山積しているなどの回答が目立った。また、それらを解決しようとする前向きな回答も目立った。

② 実施主体からの研修内容結果評価

文化庁委嘱事業の採択により、通常では困難な国内で講師として活躍されている著名な方による研修を開催できた。事業の後半は参加人数が減ったが、1回の研修が概ね6時間という過密なスケジュールにより、参加者にとって負担が大きかったようだ。ただし、10名程度の方は継続して研修を受けていただくことができ、スキルアップにつながった。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

平成22年度は行政(三次市)の予算で日本語指導者養成研修講座を年間4回(8時間程度)実施予定。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

県北部3市での日本語教室のネットワークづくりの足がかりができ、各教室間の情報交換や交流事業の開催などの実施に結びつく方向性ができた。また、外国人の生活相談についても3市でのネットワークによる組織の設立への機運が高まった。

② 研修後の人材活用

・研修を受けた日本語指導ボランティアは日本語教室での指導で実践。地域日本語教室の核となり、教室活動の運営や改善などについて市に提言する。外国籍住民との連携を図り、外国籍住民への地域活動参加を促す役割を担う。

・研修を受けた行政職員は日本語教室の運営や外国籍住民との接遇等で実践

(12) 今後の課題

地域における日本語教室の更なる充実を図るため、県・市の行政や外国人を雇用する地元企業との協働・連携が必要。また、日本語学習者が遠方へ行かなくても日本語学習や生活相談ができる環境整備(人材発掘や人材育成)が求められる。現在、地域の日本語教室指導者の年齢層は高いため、次世代指導者となる人材発掘が大きな課題である。また、将来的には外国人が働く現場で役立つような日本語の指導ができる人材を養成していくニーズもある。